

第 614 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

テレビ番組

「日本のチカラ 世界がとりこ！高級爪切り
～鍛冶屋の工場革命～」



平成 28 年 1 月 27 日

BSN新潟放送

第614回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成28年1月27日(水) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟放送 本社6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員	相羽利子	委員	高井盛雄
委員	正道かほる	委員	古賀豊
委員	小島良子	委員	佐々木広介
委員	佐藤元	委員	佐藤明
委員	細田康	委員	高木言芳(新任)

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	営業局長	斎藤和利
編成局長	島田好久	報制局長	太田志信
ラジオ本部長	高坂元己		

○放送事業者側欠席者

専務 梅津雅之

○放送事業者側オブザーバー出席者

経管局長 赤塚 宰

<説明員> 報道制作局情報センター ディレクター 高橋 紘子

事務局

事務局長 増山由美子 (広報部長)

事務局員 丹羽 崇 (社長室長)

4. 議 題

1 新委員のご紹介 番組審議委員長並びに副委員長選出

- | | |
|--------|---|
| 2 諮問 | 番組基準の変更について |
| 3 報告事項 | 2・3月の新番組、単発番組について（各局長） |
| 4 審議番組 | テレビ番組「日本のチカラ」
放送日時 2015年12月26日（土）6：00～6：30 |

5. 議事の概要

審議会のはじめに、竹石社長より12月で退任された松川公敏委員に代わり就任の高木言芳（たかぎ ことふさ）新委員の紹介があった。

続いて、今年度の委員長に相羽利子委員、副委員長に古賀豊委員が選出された。

次に番組基準の変更について竹石社長が番組審議会に諮問し、委員による審議を経て承認された。その後、「日本のチカラ」について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- とても良く描けていて、素晴らしい番組だった。あえて欠点を言えば、社長はオープンファクトリーの試みや外国語の能力を身につけるなどご苦労されていると思うが、そうした苦労の点が描き切れていたのか。30分という放送時間の問題もあると思うが、それらが描けていれば、社長のリーダーシップがどういうものかもより伝わったのではないか。
- 素晴らしい番組だった。複雑な作業工程が分かりやすく紹介されていて、文字スーパーも有効に使われていた。声の拾い方、インタビューも効果的だった。子供達のキャリア教育にもつながるテーマで、非常に訴えかける内容だった。
- 高い志の番組で、全体的に非常に良くできていたが、30分でまとめるのは大変だったのではないか。番組前半は新潟県民ならみんな知っている内容。全国放送なので、他県の人にキチンと伝えないといけないのだろうが、長いと思った。一方、オープンファクトリーの部分が伝えきれたのかどうか、比重の置き方を変えてもよかったのではないか。オープンファクトリーの時代背景や新しい産業・企業の在り方を描くことができれば、これからの時代にぶれない日本のチカラを紹介できたと思う。
- 30分という時間の中で燕三条地域の文化、歴史、人々の空気感を上手に映し出していた。ただし、番組冒頭の「ヒット商品」というコメントは、職人の世界と照らし合わせると、違和感があった。別の言い換えができなかったのか。
- 社長と弟子のドラマあり、燕産業の新しい波あり、非常に良い構成の番組で、映像面でもディレクターの新鮮な感性が伝わった。もっと時間があればとも思ったが、至る所で社長の個性にマッチした作りになっていて、工夫がみられた。

- 燕三条の若い社長の活躍を紹介していて、非常に良い内容だった。せっかくの素晴らしい番組なので、もっと見てもらえるような時間に放送できなかったのか。
- 30分ストレスなく一気に見ることができた。今回、紹介した企業は日本のものづくりにおいて新潟県内の代表例であり、観光の拠点としても大きな役割を果たしている。それだけ良い番組であればこそ、県民にもっと浸透するように放送時間を大切にしてほしい。
- 勤めている学校の子供達が見学することがあるが、番組では、働いている人たちをカッコよく映していて、とても嬉しかった。また、ものづくりという視点だけでなく、人づくり、まちづくりという視点で番組を見る事ができた。子供もさることながら、親世代にいかに関心を持ってもらうかがポイントだが、今回はお父さん世代が確実に面白いと思ってくれる番組だったと思う。
- 30分でとても良くまとめられていた。今回は、爪切りのおしゃれな部分がメインで描かれていたが、医療介護の観点からも実用的に優れている製品であると思う。こういう企業を取り上げられると、新潟県人で良かったと誇りが持てる。ただし、BGMとして使っていた「民衆の歌」は合わないのではないかな。また、コメントにあった「鍛冶」という言葉は聞いただけでは漢字が思い浮かびにくいので文字スーパーで出した方が良かった。

～報道制作局情報センター・高橋紘子ディレクターから～

今回は貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。

- 燕三条は今、一番元気な街。若い社長たちが横のつながりで地域を元気にしようと取り組んでいる様子を全国に紹介したいと思い、取材した。ハンドメイド、ものづくりの裏側にまさに「ひと」がいる。社長のご苦労については、もっと内面を掘り下げられれば良かったので、委員のご指摘を次回に活かしたい。また、「ヒット商品」という言葉は分かりやすいキーワードで、番組を見ている方に興味を持って頂きたいために使わせてもらった。燕三条には働きたくなる企業、集客型の企業が増えているので、今後も地域の動きを追っていきたい。

～放送時間について編成局・島田局長から～

- 今回の番組は民間放送教育協会加盟社として制作し、従来通りの放送時間で対応したが、民教協事務局と調整した上でご指摘を今後活かしたい。

【文責・番組審議会事務局】
